



○ポイ捨てゴミ拾い

八月二十八日（日）

午前八時から一時間ほど、円城寺一帯でポイ捨てゴミ拾いが行われた。この活動には円城寺町内会、道德のまち笠松関係者に加え、中日本

高速道路（株）岐阜保全・サービスセンタ

ー、笠松中学校生徒にも参加いただいた。

総勢一八〇名ほどの方々が神明神社、円城寺集会所、名岐バイパス下トンネル、羽島用水道路下田の四箇所が集まって取り組んだ。高く伸びた草をかき分けて回収されたポイ捨てゴミの量は、トラック一杯に及んだ。

○見過ごさない心

円城寺の名岐バイパス・JR東海道線と堤防道路が交差する付近は、通行車両も多く、ポイ捨てゴミも半端でない。これまで一斉清掃のつど拾ってきた。道德のまち笠松でもたびたび拾ってきた。ゴミ

ミの大部分は、車から捨てられたもので、笠松から出したゴミではない。しかし、汚れたままにしておくのは恥かしい。きれいな地域で生活したい。そんな思いで、これまでひたすら拾ってきた。結果、ゴミは少し減ったようだが改善されたとは言えない。しかし、ゴミを見過ごさない心を持ち続け、今回の取り組みとなった。

○捨てにくい環境を

今回も、まずゴミを拾いきれいな場所にする。ゴミを捨てない、見逃さない心で黙々と拾う。その姿でゴミを捨てないでと訴える。さらに、今回はのぼり五十本を立てた。のぼりには、道德のまち笠松のイメージカラーである赤と白の配色が採用されている。

名岐バイパス・JR東海道線付近

ポイ捨てゴミ 見過ごさないまっしー！

布地に白字で『ポイ捨てしますか 心も捨てますか』と染め抜かれている。一人ひとりの心に届けたい。捨てにくい環境づくりへの工夫である。

○地域の力

今回の取り組みには、小中学生から高齢者まで、幅広い年代層の方々に参加いただいた。「おはようございます」「ご苦労さま」と声をかけ、一緒に取り組む。若い人が「ゴミを持ちましょうか」と高齢者を気遣う。このかわり、人と人との距離を少しずつ近づける。いっしょに活動する中で、この地で共に暮らす一体感と地域の課題に共に取り組もうとする心が育まれる。これが地域の力。この力こそゴミ問題を解決する糸口になるのでは。



JR東海道線下のポイ捨て・投棄ゴミを拾い、のぼりを立てる町内会の人々